Twelve Concepts for NA Service

概念一

NAの第一の目的を実現するため、NA全体のためにサービスを展開、調整、維持するサービス機構を、NAグループが一致協力してここに設立した。.

NAグループの第一の目的とは、回復のためのミーティングを開いて、まだ苦しんでいるアディクトにメッセージを直接運ぶことである。だがそれ以外のサービス——たとえば H&I、PI、出版物の発行など——も効果的に実行され、いっぽうグループは第一の目的に徹していられるよう、各グループは力を合わせてサービス機構を支えている。

概念二

NAサービスを行なう最終的な責任と権限はNAグループにある。.

グループが協力して設立したサービス機構に対する最終責任と権限はグループにある。グループは、グループの良心や見解、人員、必要な金銭などをサービス機構に提供してその責任を果たし、その権限をも行使している。逆に言えば、サービス機構はグループに支援と指示をつねに求めなければならない。

概念三

NAグループは、課せられた責任をサービス機構が果たすために必要な権限をその機構にゆだねている。.

日常的なことがらについては、サービスボードやコミティがゆだねられた業務を行なうために必要な具体的な権限が、グループから与えられている。ただしサービス機構に与えられた権限は無制限ではない。最終的な責任は依然としてグループにある。概念3を有効に生かすためには、任されたしもべの選出を慎重に行なわなければならない。

概念四

ナルコティクス アノニマスでは、すぐれたリーダーシップが高く評価される。任されたしもべを選出する際は、リーダーシップの資質があるかどうかを慎重に考慮すべきである。

リーダーシップはNAという集まりの繁栄のためにはきわめて重要である。この概念が述べているのは、任されたしもべを選出するときには、リーダーシップについての数々の資質があるかどうかを考慮すべきだということである。

概念五

サービス機構に託されたおのおのの責任については、決定権をどこに置くのか、果たすべき義務は何かを明確にしておかなければならない。

それぞれに託されたサービスについて、どこが決定権を持つかを明確にすることで、一体だれに何をする権限があるのかという混乱が避けられている。また、NAのサービスについて果たすべき義務も明確にされている。つまりいずれかのところが何らかの業務を行なうために権限を与えられたのなら、その業務を成しとげる義務があるということである。

概念六

グループの良心とは、愛なる神のはたらきが私たちの決定に示されるよう心を開くスピリチュアルな手段である。.

グループの良心は、12 のステップによって経験したスピリチュアルな目覚めを、サービスに関する決定に生かしていく手段である。また、NAという集まりが意思決定をする際には欠かせないものである。ただし「選挙」の遠まわしな言い方に用いられているものの、グループの良心そのものが、NAの意思決定過程になるわけではない。

ひとりでは考えられなかったし考えつかなかった)意見
みんなでやると考えられる
それぞれの人がNAへの愛を持って集まることで、

概念七

サービス機関に属するメンバーは全員が、その機関の決定に多大な責任を負っているため、その意思決定過程には全員が完全に参加できなければならない。.

ひとつのサービス機関に属するメンバーは全員がその機関の決定に多大な責任をもつ。したがって、その意志決定過程には全員が完全に参加できなければならない。NAのサービスは、チームとして協力して行なう取り組みである。全員の良心をあらわすには、そのチームのメンバー全員が全面的に参加することが何よりも重要である。

概念八

NAのサービス機構は、私たちがどれほど誠実に、そして効率的に意思疎通をはかるかにかかっている。

意思疎通をつねにはかることが、あらゆる概念を実現するために、そしてNAのサービスを誠実に効率的に行なうためには欠かせないことである。

概念九

NAのサービス機構を構成する機関はすべて、意思決定を行なうにあたっては、あらゆる観点から慎重に検討を行なう責任がある。

出された判断をチェックし、軽はずみな決定や誤解のあるままの決定を避け、さらに、新しい意見をどんどん出してもらうためにも、サービス機関が計画を立てる際にはあらゆる観点から検討を行なわなければならない。正当で、賢明で、バランスの取れたグループの良心を掘り起こすには、このことが欠かせない。

概念十

サービス機関に属するメンバーはだれもが、もし不当な扱いを受けた場合にはそれを正すよう、報復を恐れることなく、その機関に申し立てることができる。

概念 10 は、サービスを行なうなかではお互いを尊重するよう働きかけており、さらに、ほかの人を不当に扱ったときの埋め合わせの手段も示している。また、不当な扱いを受けたように思ったとき、その扱いに対する救済を求める方法も述べている。

概念十一

NAの資金は、NAの第一の目的のさらなる実現を果たすために使用されるものであり、責任をもって管理されなければならない。.

概念 11 はNA資金の、絶対的に優先すべき唯一の使い道を定めている。それはメッセージを運ぶことである。この優先順位は重大であるため、基金の使途の説明責任が全面的に求められる。私たちは各サービス機関に直接献金をすることで、第一の目的だけに目を向けて、責任を果たしている。

概念十二

ナルコティクス アノニマスのスピリチュアルな本質を踏まえ、NAの機構はつねに奉仕の精神をもち、支配的になってはならない。

12 の概念全体の枠のなかでもこの概念は、伝統全体のなかの伝統 12 とほぼ同じ役目を果たしている。つまり、NAサービスという考え方は、無私無欲のサービスというスピリチュアルな本質を土台にしていることを思い出させるものである。「このことを土台として築かれた機構は、サービスをするためだけにあるもので、決して支配はしない」。

2009. 12/12～13 ワールドサービス・ワークショップにて配布

The Twelve Traditions of NA

伝統一

第一にすべきは全体の福利である。個人の回復はNAの一体性にかかっている。

NAの第一の伝統は一体性と全体の福利に焦点を当てている。私たちの新しい生き方でいちばん大切なのは、回復を求めるアディクトたちで構成されたグループの一員になることだ。私たちが生き残ることができるかどうかは、グループの存続、NAの存続に直接関係している。NAのなかで一体性が保たれるためには、グループがつねに安定していなければならない。そうでなかったら、NA全体が消滅し、一人ひとりのメンバーも命を落とすことになる。

伝統二

私たちのグループの目的のための最終的権威はただ一つ、グループの良心の中にあらわれる愛なる神である。私たちのリーダーは奉仕を任されたしもべにすぎず、彼らは決して支配しない。

私たちがサービスを行う場合、それが、個人としてか、グループとしてか、あるいはコミティやサービスボードとしてかはともかく、そのサービスの方向付けは自分で理解している神によって示される。私たちが一体となって協力するときはいつでもこの愛なるハイヤーパワーの存在を頼り、その導きを求めている。すると私たちのあらゆる行動のなかに方向性が示されるのだ。《略》何らかの能力を発揮して、私たちのためにサービスをしてくれるメンバーを選出するときには、お互いに対する信頼感を働かせる。

伝統三

メンバーであるために要求される唯一のことは、使うことをやめたいという願望だけである。

伝統3は、判断など決してしないよう呼びかけている。また伝統3は、人の助けになり、受け入れ、無条件に愛そうとする心構えにつながるサービスの道へと私たちを導いている。《略》アディクションは死に至る病気だ。回復を知らないアディクトが行き着く先は、刑務所か施設、あるいは死しかない。たとえ単なる好奇心でやってきたアディクトであっても、そのアディクトにミーティングの参加を断ったら、死刑宣告をしたのも同じなのだ。

伝統四

各グループは自律的でなければならない。ただし、他のグループまたはNA全体に影響をおよぼす事柄においてはこの限りではない。

どのグループにも完全な自由がある。ただし、その行動が他のグループやNA全体に影響を及ぼさないかぎりという条件がついている。私たちの行動を確認した結果、それが伝統の枠組みからはずれていないことが確実であるなら、そして、ほかのグループに対して命令したり強制したりしていないなら、また、行動を起こした結果について事前によく検討しているのなら、何もかもうまくいくはずだ。

伝統五

各グループの第一の目的はただ一つ、まだ苦しんでいるアディクトにメッセージを運ぶことである。

私たちのメッセージとは何だろう。それは、アディクトであれば、どんなアディクトであっても、薬物を使うのをやめることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見いだすことができるというメッセージだ。私たちのメッセージは希望であり、そして自由を約束するものだ。結局、私たちの第一の目的はまだ苦しんでいるアディクトにメッセージを運ぶこと以外ありえない。私たちに与えることができるのはそれだけなのだ。

伝統六

NAグループはいかなる関係ある施設にも、外部の組織に対しても、支持や融資をしたり、NAの名前を貸したりしてはならない。金銭や所有権や名声の問題が、私たちを第一の目的からそれさせるおそれがあるからである。

伝統六が設けている限度の範囲内であっても、回復のメッセージを運び、アディクトの手助けをするための自由は計り知れないほど大きいものだ。ナルコティクス アノニマスという独自性（アイデンティティ）によって定められた明確な境界線があるからだ。その境界線を侵すことのないように心を配れば、外部との関係により、まだ苦しんでいるアディクトへメッセージを運ぶ私たちの力がさらに強化されこそすれ、第一の目的からはずれることにはならないのだ。

伝統七

すべてのNAグループは、外部からの寄付を辞退して、完全に自立しなければならない。

伝統7がグループに対して、自分たちの経費は自分たちでまかなうようにと伝えることで、グループは、自分たちにふさわしい方法で回復を分かち合う自由を確保する。外部の出資者の言うことを聞く義務はない。さらに、グループに対して、スピリチュアルな原理を生かしてこそ生まれる内面的な強さを得る自由も与えている。

伝統八

ナルコティクス アノニマスはどこまでも非職業的でなければならない。しかし、サービスセンターのようなところでは専従の職員をおくことができる。

この伝統がいっているのは、NAのなかに専門職の人たちを置かないということだ。つまり、NAの職員として精神科医や医師、弁護士、カウンセラーはいない。私たちのプログラムは、一人のアディクトがもう一人のアディクトの手助けをしていくことで効力を発揮する。NAグループのなかに専門職を置くようになったら、私たちの一体性はめちゃめちゃになるだろう。私たちはみな、対等の立場でお互いに惜しみなく手助けをしている、ただのアディクトなのだ。

伝統九

NAそのものは決して組織化されてはならない。しかし、サービスの機関またはコミティをつくることができる。これらの機関は、グループやメンバーからの付託に直接応えるものである。

NAのグループが協力し合い、各グループが持つ資源を集めてサービスボードやコミティを作るのであれば、第一の目的をさらに効率よく達成することができる。ボードやコミティが会合を開くのは、ナルコティクス アノニマスを支配するためではなく、グループからの信頼を忠実に実行に移すためである。

伝統十

ナルコティクス アノニマスは外部の問題には意見を持たない。したがって、NAの名は公の論争で引き合いに出されるべきではない。

社会には多数のアディクション関連の問題があり、回復を進めるアディクトたちの国際的な集まりも、立場をはっきりさせたほうがいいという世の中の期待がある。《略》伝統 10 にそって答えるなら、NAグループもNAそのものも、NAプログラム以外のことについてはいかなる問題に対しても賛成も反対もせず、どのような見解も示さない、ということだ。《略》私たちは、存続するために外部の問題に意見を持たないのだ。

伝統十一

私たちの広報活動は宣伝により促進することよりも、ひきつける魅力に基づく。活字、電波、映像の分野で、私たちはいつも個人名を伏せる必要がある。

広報活動には「方針」がある。そのことは、NAの第一の目的を果たすうえで、広報関係の「プログラム」がどれほど大切かを示している。《略》NAグループ、サービスボード、コミティとして、私たちが慎重に、そして精力的に、一般の人たちとの良好な関係を深めようとしているのは、アディクトにNAのメッセージをもっと効率的に運ぶためである。それは、NAの通常の活動を行っていれば自然に深まるというものではない。《略》公けの場ではメンバーが無名になることで、それに参加しているメンバーではなく、NAのメッセージに的を絞った広報活動を行うことができる。

伝統十二

無名であることは、私たちの伝統全体のスピリチュアルな基礎である。それは、各個人よりもNAの原理が優先すべきことを、いつも、私たちに思い起こさせるものである。

無名であることは私たちの回復の基本要素であり、それは私たちの伝統とNAという集まりのなかに深く浸透している。またそれは私たちを自分たちの性格上の欠点から守ってくれ、個人の性格だとか一人ひとりの違いだとかを払拭（ふっしょく）してくれる。無名であることを実際に行動で示すとき、原理よりも個人を優先させることなど不可能になるのだ。

NAサービスでよく使われる用語一覧　（一部、関東エリアに限る箇所あり）

略語	用語	意味
	ｴﾘｱ Area	NA のｸﾞﾙｰﾌﾟが集まる一定の地域のこと。 東京、千葉、埼玉の各ｸﾞﾙｰﾌﾟが集まって関東ｴﾘｱを構成している。現在関東ｴﾘｱには　45 ｸﾞﾙｰﾌﾟある。
	ﾘｰｼﾞｮﾝ Region	ｴﾘｱの集まる一定の地域のこと。日本では日本国が１つのﾘｰｼﾞｮﾝである。北海道、東北、北関東、群馬、関東、南関東、中部、関西、中国、四国、九州、沖縄の 12 ｴﾘｱある。
ASC	ｴﾘｱ・ｻｰﾋﾞｽ･ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ Area Service Conference	数々の隣接のｸﾞﾙｰﾌﾟのｻｰﾋﾞｽの経験を　１つにまとめ、これらのｸﾞﾙｰﾌﾟをｻﾎﾟｰﾄしあっていくためのｻｰﾋﾞｽ体。それぞれのｸﾞﾙｰﾌﾟからの　GSR およびそれぞれのｺﾐﾃｨのﾁｪｱﾊﾟｰｿﾝ達で構成される。毎月開催。一般にﾘｰｼﾞｮﾝの一部であり代表をﾘｰｼﾞｮﾝに送る。
RSC	ﾘｰｼﾞｮﾅﾙ･ｻｰﾋﾞｽ･ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ　(RSC 会議) Regional Service Conference	数々の隣接のｴﾘｱのｻｰﾋﾞｽの経験を１つにまとめ、これらのｴﾘｱをｻﾎﾟｰﾄしあっていくためのｻｰﾋﾞｽ体。それぞれのｴﾘｱからの　ASR およびそれぞれのｺﾐﾃｨのﾁｪｱﾊﾟｰｿﾝ達で構成される。年　2 回開催。一般に WSC の一部であり代表を WSC に送る。
RSC	ﾘｰｼﾞｮﾅﾙ･ｻｰﾋﾞｽ･ｺﾐﾃｨ (RSC 運営委員会) Regional Service Committee	RSC 会議を円滑に進めるための話し合いの場を提供するサービス体。
APF	ｱｼﾞｱ･ﾊﾟｼﾌｨｯｸ･ﾌｫｰﾗﾑ Asia Pacific Forum	ﾘｰｼﾞｮﾝとﾜｰﾙﾄﾞ･ｻｰﾋﾞｽ･ｶﾝﾌｧﾚﾝｽを結ぶｿﾞｰﾝ体
WSC	ﾜｰﾙﾄﾞ･ｻｰﾋﾞｽ･ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ World Service Conference	ﾘｰｼﾞｮﾝの代表および世界ﾚﾍﾞﾙにある奉仕を委された僕によって構成される唯一のｻｰﾋﾞｽ体。　2 年に1度開催される。投票権は RD と WB ﾒﾝﾊﾞｰに与えられる。
WSO	ﾜｰﾙﾄﾞ･ｻｰﾋﾞｽ･ｵﾌｨｽ World Service Office	ﾜｰﾙﾄﾞｻｰﾋﾞｽ拠点（ﾛｽｱﾝｾﾞﾙｽ）および支部（ｶﾅﾀﾞ、ﾖｰﾛｯﾊﾟ）。　NA 唯一の世界規模のｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ。　NA のｶﾝﾌｧﾚﾝｽおよび　NA 全体から許可された文献、ｻｰﾋﾞｽﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸおよび他の資料を印刷し、在庫し、販売する。新しい NA ｸﾞﾙｰﾌﾟおよび発展途上のNA 共同体をｻﾎﾟｰﾄする。　NA 情報に関する clearing-house。
WB	ﾜｰﾙﾄﾞ･ﾎﾞｰﾄﾞ World Board	WSC のｻｰﾋﾞｽ評議会。　WSO も含め、NA のﾜｰﾙﾄﾞｻｰﾋﾞｽ活動を監督する。
JCO	ｼﾞｬﾊﾟﾝ･ｾﾝﾄﾗﾙ･ｵﾌｨｽ Japan Central Office	専従の職員から構成される。文献等の発送、外部との受け皿として機能している。
ASR	ｴﾘｱ･ｻｰﾋﾞｽ･ﾘﾌﾟﾚｾﾞﾝﾀﾃｨﾌﾞ Area Service Representative	ｴﾘｱの代表。　RSC にて投票権のある参加者。ﾘｰｼﾞｮﾝ、　JCO への連絡窓口。
RD	ﾘｰｼﾞｮﾅﾙ･ﾃﾞﾘｹﾞｲﾄ Regional Delegate	ﾘｰｼﾞｮﾝの代表。 WSC にて投票権のある参加者。

GSR	ｸﾞﾙｰﾌﾟ・ｻｰﾋﾞｽ・ﾘﾌﾟﾚｾﾞﾝﾀﾃｨﾌﾞ Group Service Representative	ｸﾞﾙｰﾌﾟの代表。 ASC にて投票権がある参加者。
APFRD	ｱｼﾞｱ・ﾊﾟｼｯﾌｨｸ・ﾌｫｰﾗﾑ・ RD Asia Pacific Forum RD	ﾌｪﾛｰｼｯﾌﾟ・ﾃﾞﾍﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄの代表。毎年 APF 会議に参加。
-Alt ｵﾙﾀ	- ｵﾙﾀﾈｲﾄ -Alternate	RD 、 ASR 、 GSR の副代表。各代表が欠席の場合のみ各ｶﾝﾌｧﾚﾝｽで正式な参加者と認められる。
COMMITTEE	ｺﾐﾃｨ	各ｺﾐﾃｨはｻｰﾋﾞｽをするための実際の作業をする場所。
ｷﾞｬｻﾞﾘﾝｸﾞｺﾐﾃｨ		年に１度、ﾒﾝﾊﾞｰを集めて催しものを行う。
ｾﾐﾅｰｺﾐﾃｨ		年に１度、回復のｵｰﾌﾟﾝ・ｽﾋﾟｰｶｰｽﾞ・ﾐｰﾃｨﾝｸﾞを行う。
広報ﾒｯｾｰｼﾞ		関東ｴﾘｱでは PI と H&I が合体している。
PI	ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸ・ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝ Public Information	NA を広く知ってもらうために行う広報活動。行政やﾏｽｺﾐ向けも含めて対応する NA の外部に対する窓口。関東ｴﾘｱではﾐｰﾃｨﾝｸﾞﾏｯﾌﾟとｹｲﾀｲｻｲﾄの更新もしている。
H&I	ﾎｽﾋﾟﾀﾙ＆ｲﾝｽﾃｨﾃｭｰｼｮﾝｽﾞ Hospitals and institutions	病院・施設（回復施設や刑務所等）にﾒｯｾｰｼﾞを運ぶ活動をする。
LTC	ﾛｰｶﾙ・ﾄﾗﾝｽﾚｲｼｮﾝ・ｺﾐﾃｨ Local Translation Committee	ﾜｰﾙﾄﾞ規模から発行される NA の文献を翻訳する。
FD	ﾌｪﾛｰｼｯﾌﾟ・ﾃﾞﾍﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ・ｺﾐﾃｨ Fellowship Development	開発途上の近隣諸国にナルコティックアノニマスの継続、成長を促す手助けを提供するｻｰﾋﾞｽ体。
役員		各ｻｰﾋﾞｽ体においての係り、役割。役員として 1 票の投票権を持つ。
係り 役割		各ｸﾞﾙｰﾌﾟにおいてのｻｰﾋﾞｽ。
ｾｸ	ｾｸﾚﾀﾘｰ secretary	各ﾐｰﾃｨﾝｸﾞの責任者。しばしばﾐｰﾃｨﾝｸﾞの司会もおこなう。会議場のｺｰﾋｰの用意や補充、また利用施設とのやり取りや管理をする。（関東ｴﾘｱでは用務はﾁｪｱ・ﾊﾟｰｿﾝに移行）
代ｾｸ		ｾｸﾚﾀﾘｰ欠席のﾐｰﾃｨﾝｸﾞ場の臨時責任者。
ｴﾘｱ・ｾｸ	ｴﾘｱ・ｾｸﾚﾀﾘｰ Area Secretary	役員、 GSR ﾘｽﾄの作成と管理。ｴﾘｱ連絡網の作成、管理、またｴﾘｱ内の連絡窓口。
会計		各ｸﾞﾙｰﾌﾟやｻｰﾋﾞｽ体の献金の管理と運営をする。毎月会計報告をする。
副会計		会計のｻﾎﾟｰﾄを行う。
書記		各ｸﾞﾙｰﾌﾟのﾋﾞｼﾞﾈｽﾐｰﾃｨﾝｸﾞやｻｰﾋﾞｽ体において、会議内容を記録に残し毎月議事録作成と送付、伝達をする。
副書記		書記のｻﾎﾟｰﾄを行う。
ﾁｪｱ	ﾁｪｱ・ﾊﾟｰｿﾝ Chair Person	会場の司会を請け負う。ｻｰﾋﾞｽ体全体の把握また資料の作成する。（関東ｴﾘｱではｾｸ用務を兼ねる）
ｳﾞｧｲｽ	ｳﾞｧｲｽ・ﾁｪｱ・ﾊﾟｰｿﾝ Vice Chair Person	ﾁｬｱのｻﾎﾟｰﾄを行う。また関東ｴﾘｱでは各ｺﾐﾃｨを取りまとめる。
HOME GROUP	ﾎｰﾑ ｸﾞﾙｰﾌﾟ	ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ場におけるﾒﾝﾊﾞｰの家で、自分に合っていて、仲間意識のもてる場所。 NA ﾊﾞｰｽﾃﾞｰを祝ったり、奉仕を実践する場所でもある。